

科目名	真言密教特殊講義L							学期	後期
副題	四国遍路の歴史				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-225	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

## 授業の目的と概要

この講義では、弘法大師・空海によって開かれたといわれる四国八十八ヶ所霊場を巡る四国遍路の歴史や、四国の各地に残る弘法大師の伝説を、江戸時代に出版された各種の霊場記などを読みながら学び、宗教と巡礼の関係を探る。また、四国遍路を実践するための、作法や計画の立て方などを学ぶ。

## 授業の到達目標

四国遍路の歴史や、四国八十八ヶ所の霊場の縁起などについて説明できるようになる。四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解する。四国遍路の作法や計画の立て方を学び、それらを四国遍路の実践に活用できるようになる。

## 授業計画

1. 四国遍路とは何か
2. 四国遍路の起源
3. 補陀落信仰と四国霊場
4. 熊野信仰と四国霊場
5. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程①（古代・中世）
6. 四国八十八ヶ所霊場の成立過程②（近世）
7. 四国霊場の確立①（澄禅の日記を読む）
8. 四国霊場の確立②（真念の業績・案内書の刊行）
9. 四国霊場の確立③（真念の業績・標石や辺路屋の建立）
10. 近代（明治から戦後）の四国遍路
11. 四国遍路の習俗
12. 四国に残る弘法大師の霊跡
13. 国霊場巡拝の作法
14. 現代の四国遍路と、実践へのアプローチ
15. 試験と総括

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。(30分) 講義内容と、講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60分)

## テキスト

頼富本宏『四国遍路とはなにか』（角川選書）2009年

## 参考書・参考資料等

浅井証善『はじめての「四国遍路 88ヶ所めぐり」入門』（セルバ出版） 森正人『四国遍路』（中公新書） 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』（ちくま新書） など

## 学生に対する評価

試験（40%）、発表・質問（30%）、授業参加の積極性（30%）

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路とは何かを、簡単に説明できる。
- (B) 四国遍路に関する基本用語を説明できる。
- (A) 四国遍路（八十八ヶ所巡礼）の成立過程を、古代から現代まで、時代の順に沿って説明できる。
- (S) 四国霊場の成立過程と現状を把握し、宗教における巡礼の意義を説明できる。

## 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

## その他

受講前あるいは受講後に、四国遍路の実践をおこなうことをお勧めする。

## 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国霊場寺院の住職である教員が、四国遍路の歴史、現状、作法などについて、具体的な知識と情報を提供する。